

● 左近さん

松平頼該（通称左近、金岳と号した）は、8代藩主・松平頼儀の三男として誕生。異母弟の頼胤（10代藩主）が生まれると8歳の時、国元の高松へ移り住む。学問や芸術文化の分野で才能を発揮する一方、法華宗を深く信仰した。31歳で城下の宮脇村亀阜荘へ隠居。体制内にありながら勤皇志士たちの活動を助けた。

慶応4年（1868）1月3日に始まった鳥羽・伏見の戦いで、朝廷は高松藩兵が薩長軍に発砲したため朝敵とみなし、8日追討令を出した。高松の城下では藩が朝敵として征伐を受けるといううわさが広がり、にわかの大混乱となった。町奉行は下役を諸方に出して騒ぎの鎮静化に努めたが収まる気配はなかった。

一方城内では10日に敗戦の報が、12日朝には会津藩などととも朝敵として追討令が下ったとの急報、さらに同日夜には大坂蔵屋敷没収の事態が報告された。意外な急変に家中総登城の触れが出され、追討の官軍を迎え撃つか、これに降伏するかで議論が沸騰、收拾がつかない状態に陥った。こうした大評定の中、14日には大坂在住の高松藩儒官藤澤恒太郎（のちに南岳）らが帰着し解決策を献言、16日夜には京都興正寺門跡の直書により朝廷側の考え一単なる嘆願書のみではことは収まらず、責任者処分で服罪

の実証を示すことが必要一を確認した藩主頼聰は苦しい立場に立たされた。

この場に至り、連枝（藩主と兄弟関係にある意）の松平左近は「恒太郎の言うことを聞かずにあくまでも官軍と戦うと申すのであれば、まず私の首を切ってからにせよ。」と一喝。一同見守る中で頼聰は「恭順のほかなし、よきにはからえ。」と決断し、朝命恭順に統一した。

高松の最も長い一日であった。

左近さんは、この大事変の後8月6日、忽然と世を去る。享年60歳。遺言により西山崎町の本堯寺に葬られている。霊廟は（現在改修中）複合社殿形式で国の登録有形文化財となっている。

また、左近さんの菩提寺（位牌を泰安し、冥福を祈る寺）は新田町の本覚寺（平成19年に御坊町から移転）であり、客殿の一室に亀阜荘の扇の間を再現。庭にはかつて大雄庵跡にあった「勤王志士遺蹟」の石碑も移建され、永代堂を建築中である。（谷本義隆）

（参考文献）

讃岐人物風景 巻9	四国新聞社編
藤澤南岳先生ものがたり	塩江町歴史資料館
金岳公子	法華宗四国教区

● 高松城の復元活動にご賛同頂いている法人会員

（公財）松平公益会、（宗）石清尾八幡神社、高松市婦人団体連絡協議会、高松市茶華道協会、高松市大工町自治会、香川県造園事業協同組合（玉藻公園指定管理者）、高松丸亀町商店街振興組合、高松市観光ボランティアガイド協会、（公）高松青年会議所、（株）香川経済レポート社、香川証券（株）、（株）喜代美山荘（花樹海）、ネットトヨタ高松（株）、（株）二蝶、（株）アムロン、（株）菅組、高松帝酸（株）、（株）香西工務店、高松商運（株）、久米加（株）、（株）森造園、（株）ネクサス、高尾石材（株）、四国興業（株）、大塚整形外科医院、清水建設（株）四国支店、（株）安藤・間四国支店、後藤設備工業（株）、三条山下内科医院、（株）オーディオサミット、（有）角田米穀店、（株）EBiSU、西日本土木（株）、日本舞踊藤間流「勘雅智枝会」、小手毬、（株）朝日段ボール、（株）フェアリーテイル、ハウス美装工業（株）、藤本秀久邦社中、北浜alley（株）、大樹生命保険（株）高松支社、（株）ツグ炭酸工業（順不同）

【協賛団体】 高松商工会議所、高松観光コンベンションビューロー、高松玉藻ライオンズクラブ、香川経済同友会（順不同）

特定非営利活動法人 高松城の復元を進める市民の会

（事務局）〒760-0029 高松市丸亀町13番地2（高松丸亀町商店街振興組合内）

TEL：087-823-0001 FAX：087-823-0730

ホームページ <http://www.takamatsujyo.jp/>

高松城の復元

検索



特定非営利活動法人 高松城の復元を進める市民の会

第10号

高松城復元かわら版

令和4年1月発行

● 天守再現は市にとって様々な波及効果が期待できる

去る12月13日の市議会において、高松城をめぐる質疑が行われましたので、その要旨を報告します。

まず質問の第一は、「史跡高松城跡保存活用計画」についてですが、大西市長は、「これまで学識経験者で構成する史跡高松城跡整備会議で6回にわたり意見を聴くなどしてきたが、今後は市議会の経済環境調査会で質疑をした上で、パブリックコメントを経て3月までに計画を策定。来年度には文化庁長官の認定を受ける予定である。」と答弁されました。この計画書には、「天守の文化財としての価値や再現の意義、効果が明記されています。」ので国がそれを認めることはゴーサインを出すこととなります。長かった道のりもいよいよ先が見えてきた感が

あり、期待膨らむ新年度になりそうです。パブリックコメントは既に意見募集中となっています。市のホームページ等でこの計画書を読んでおきましょう。

第二は、桜御門復元整備工事の進み具合と完成後の活用についての質問でした。「完成はコロナの影響で木材の調達などが遅れ、6月頃になる予定」であること。また、「江戸時代に桜御門を飾っていた幔幕を復活するなど歴史的建造物再現の効果を市民に理解していただくことにより天守再現の機運醸成に繋げてまいりたい。」と答弁されました。完成時には、本会が寄贈する3種類の幔幕が時折々に掲げられることでしょう。これまた楽しみです。

（事務局）

● 理事長 新年ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

さて、昨年はコロナの感染者が3波～5波と拡大・縮小を繰り返し、年末にはオミクロン株による第6波が懸念される状況となりました。そして、ワクチン接種も3回目に移行するという事態となり、私たちの生活もこの間、多大の影響を被っているところであります。

本会の事業も、理事会と総会という法律で定められた必要最小限の外は、コロナ感染縮小の間隙をぬっての福知山城見学会をやっと実施するだけに終わりました。

ところで、去る12月の市議会では、現在進行中の桜御門復元整備工事もその例外ではなく、完成時期が当初計画から遅れ、6月頃になる見込みであるという答弁がありました。桜の時期に落成式、と大いに期待しておりましただけに大変残念なことでありますが、瀬戸内国際芸術祭2022の夏会期（8月5日～）に訪れる大勢の皆さんには、立派に復元された

在りし日の姿をお見せすることができそうです。高松観光再生の年を目指す高松市にとって、他のなによりも力強い味方となることでしょう。

なお、今号には、中野武宮顕彰会からの文書を同封しております。香川を愛媛県から分離・独立させるということをやったのけた、言わば香川県民にとって恩人ともいえる人物を顕彰しようという活動であります。（既にご入会の方もありませんが）是非ともご支援いただきたいと思います。翁の等身大の立像は、玉藻公園西入り口近くに建立される予定と伺っております。

以上、本会を取り巻く状況の一部をご報告申し上げましたが、この変化の潮目をしっかり捉え、前進・飛躍の年となるよう会員皆様の一層のご支援とご協力をお願いしたいと思います。

末筆になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を心から祈念し、新年のご挨拶といたします。

（古川康造）

● 福知山城へ視察研修

コロナ禍により、今回は和歌山城以来の遠出だ。参加者17名が高松を朝7時30分に出発。

車内では福知山城をビデオで予習。11時30分ごろ、福知山城に到着するとボランティアガイドの芦田さんと阪根さんが待ち構えてくれた。

福知山市の人口は？との問いに「7万7千7百人、パチンコ屋さんで喜ぶ数字ですよ。」といきなり笑いを誘うガイドさんの答えに和気あいあいの視察研修が始まりました。よく晴れた秋空の下、記念写真で皆さんハイ・ポーズ。A班とB班に分かれて、このお城の特徴である「転用石」などの詳細な説明を受けつつ天守閣へ入城。

福知山城は明智光秀が天正7年(1579)頃に築いたことから始まること、内部は郷土資料館になっていて、光秀は短い統治期間の中で、地子銭(ぢしせん：屋敷にかけた税金)の免除や治水事業、さらには楽市楽座を設け経済発展に力を入れるなどの善政を行ったが、それらの古文書や書状が展示されていた。

なぜ光秀が本能寺の変を引き起こしたのか？いまだに謎であるとのこと。そして、「山崎合戦」の後、悲劇的な最期を迎えるが、福知山の民衆は光秀の善政を忘れることなく「名君」として現在も親しまれている、との説明。とにかく本能寺の変を起こすに至る疑問点(説)が非常に多いことが分かった。

旅の楽しみは食事。「たかた荘」では会席弁当であったが昼から飲むビールのうまかったこと。また地酒

も最高で、ゆったりとした時間を過ごしました。

帰りはDVDで、クラウンレコードの成世昌平が歌う「高松城」や踊りの紹介があり、特に三番「天下にあまたの城あれど、奇絶な造りに誇りあり、水城、玉藻、高松城」のくだりに大感激。できるだけ早く天守復元が実現するよう祈るような気持ちになりました。

終りに、添乗員、運転手、そして事務局には大変お世話になりありがとうございました。次の機会にも皆さんと一緒に見学会に参加できることを願っております。

紅葉は まだ早かりし 丹波路へ

17名が 古城を訪ねる

(丸亀市 西山一雄)



.....豆知識.....

天正7年(1579)に丹波を平定した明智光秀が築城。明治6年(1873)の廃城令によって解体され、石垣と銅門(くろがねもん)番所だけが残っていたが、昭和61年(1986)市民の「瓦一枚運動」などの熱意ある活動によって、三層四階の望楼型大天守と二層の小天守が復元された。市指定の文化財。コンクリート造りで総工費8億円、内5億5千万円が寄付金とのこと。

★光秀が築城した城の中で、現在唯一、天守閣がある。

★石垣：天守台から本丸にかけての石垣は野面積みという積み方で、400年以上の歳月を耐えている。また、寺社などで使われていた石輪塔や石臼、墓石などが「転用石」として使われている。その数5000以上。これだけ沢山の転用石を間近で見られるのは全国でも福知山城だけ。

★家中軍法：光秀は、軍巧者にも未熟者にも分け隔てなく軍隊として統率できるよう規律を定めた。軍隊の管理・統制を目的としたルールは、当時の織田家中にはまだ存在せず、先進的な発想であった。制定の一年後、本能寺で信長を討つことになった。

● 桜御門復元工事の状況 PART2

昨年はコロナの感染拡大により、6月6日に高松市が計画していた「上棟記念イベント」などが残念ながら中止になりました。1年間の進み具合を写真で報告いたします。ホームページでもご覧いただけます。

4月3日 立柱式



6月6日 上棟式



曳綱の儀



槌打ちの儀

7月～8月



小舞搔



荒打ち



懸魚(けぎょ)取付

10月～11月



漆喰練り



鯨瓦取付



降り棟瓦葺き

12月



軒波漆喰上塗り



2階内部



2階建具取付